



## 2018年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月13日

上場会社名 株式会社くふうカンパニー (株式会社オウチーノ分) 上場取引所 東  
 コード番号 4399 URL <https://kufu.co.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)堀口 育代・新野 将司  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)菅間 淳 (TEL) 03(6264)2323  
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2018年12月期第3四半期の連結業績(2018年1月1日~2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第3四半期	781	△0.5	△229	-	△228	-	△238	-
2017年12月期第3四半期	785	2.8	△244	-	△243	-	△231	-

(注) 包括利益 2018年12月期第3四半期 △239百万円( - %) 2017年12月期第3四半期 △231百万円( - %)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第3四半期	△100.16	-
2017年12月期第3四半期	△98.13	-

(注) 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年12月期第3四半期	1,127	988	87.5
2017年12月期	1,592	1,214	76.1

(参考) 自己資本 2018年12月期第3四半期 986百万円 2017年12月期 1,212百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2018年12月期	-	0.00	-	-	-
2018年12月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、【添付資料】P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2018年12月期3Q	2,392,235株	2017年12月期	2,382,580株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2018年12月期3Q	一株	2017年12月期	45株
-------------	----	-----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2018年12月期3Q	2,384,146株	2017年12月期3Q	2,356,396株
-------------	------------	-------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

株式会社オウチーノは、株式会社みんなのウェディングと2018年10月1日をもって共同株式移転により持株会社である株式会社くふうカンパニーを設立しております。株式会社くふうカンパニーの連結業績予想と配当予想につきましては、現時点で未定であり、開示が可能となった時点で必要に応じて速やかに公表を行ってまいります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

株式会社オウチーノグループは、「すまいを変えて、暮らしを豊かに。もっと。」を企業ミッションとして、住宅・不動産関連ポータル事業及び富裕層向けコンサルティング事業の2つを報告セグメントとした事業展開を行っております。

住宅・不動産関連ポータル事業においては、住宅・不動産業界の情報格差をなくすことで、ユーザーが住まいの売買・賃貸を快適に行えるポータルサイトの運営を目指しております。また、富裕層向けコンサルティング事業においては、富裕層のお客様の需要を適切・適宜に汲み取る「お客様のトータルケア」を目指しております。いずれの事業もユーザーファーストを徹底し、ユーザー目線の事業運営やサービス開発を行っております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、プロパティ事業及びインターネット広告代理事業の廃止等による売上高減少の影響があった一方、2017年7月より連結を開始した株式会社Seven Signatures International（以下、「SSI」といいます。）が期初から売上高増加に寄与しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は781,740千円（前年同期比0.5%減）、営業損失は229,426千円（前年同期は営業損失244,357千円）、経常損失は228,571千円（前年同期は経常損失243,427千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は238,787千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失231,224千円）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### ①住宅・不動産関連ポータル事業

当第3四半期においては、不動産会社・不動産店舗向けに、物件の周辺に関する情報を簡単に抽出し、住宅を探しているユーザーのニーズに合わせて提案可能な不動産営業支援ツール「くらすマッチ」の提供を開始しました。また、「スマート検索」の本格稼働を開始し、それに伴いオウチーノの新築・中古領域をリニューアルしております。さらに、暮らしメディア「ヨムーノ」も順調にサイト訪問者数を増加させております。

当第3四半期連結累計期間は、経営リソースを集中する目的で、各種サービスの再編成による事業の絞り込みを行い、また、エンジニアを中心とした優秀な人材の積極的な採用による先行投資を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は379,234千円（前年同期比3.5%減）、セグメント損失は253,607千円（前年同期はセグメント損失184,239千円）となりました。

#### ②富裕層向けコンサルティング事業

当事業は、SSI及びその子会社（以下、「SSグループ」といいます。）における富裕層向け不動産仲介・コンシェルジュサービス等により構成されております。

当第3四半期においては、富裕層のお客様のセカンドハウス購入や投資ニーズに合わせたリセール案件の獲得強化に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は401,850千円（前年同期は、159,077千円）、セグメント利益は13,138千円（前年同期はセグメント損失8,901千円）となりました。なお、当事業は、SSグループの連結開始に伴い、前第3四半期連結会計期間より追加された報告セグメントであります。また、セグメント損益の計上において、SSIの株式取得に係るのれん償却額を当事業の販売費及び一般管理費に計上しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,127,141千円となり、前連結会計年度末に比べ465,752千円減少しました。

主な要因は、現金及び預金の減少446,999千円であります。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は138,458千円となり、前連結会計年度末に比べ239,579千円減少しました。

主な要因は、未払金の減少60,990千円、前受金の減少71,350千円及び長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）の減少74,994千円であります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は988,682千円となり、前連結会計年度末に比べ226,173千円減少しました。

主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金の減少238,787千円であります。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

株式会社オウチーノは、2018年12月期の連結業績予想については、売上高は16億円、営業利益は黒字になると予想しておりましたが、通期の業績見通しを、売上高は10億円、営業損失は3億円へ修正いたします。

上記修正の理由については、2018年11月13日付「株式会社オウチーノの業績予想の修正に関するお知らせ」を参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,213,709	766,709
売掛金	105,985	76,260
貯蔵品	160	152
前払費用	19,685	17,164
短期貸付金	3,700	100
その他	25,279	50,328
貸倒引当金	△3,700	△2,000
流動資産合計	1,364,820	908,714
固定資産		
有形固定資産	32,441	30,657
無形固定資産		
のれん	170,423	156,969
その他	5,765	14,937
無形固定資産合計	176,189	171,906
投資その他の資産	19,442	15,863
固定資産合計	228,073	218,426
資産合計	1,592,893	1,127,141
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	39,956	25,592
1年内返済予定の長期借入金	50,004	—
未払金	127,354	66,363
未払法人税等	8,989	784
前受金	88,805	17,454
その他	37,937	28,264
流動負債合計	353,047	138,458
固定負債		
長期借入金	24,990	—
固定負債合計	24,990	—
負債合計	378,037	138,458
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	823,807	830,480
資本剰余金	964,723	971,388
利益剰余金	△575,818	△814,780
自己株式	△174	—
株主資本合計	1,212,537	987,087
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	202	△334
その他の包括利益累計額合計	202	△334
新株予約権	2,116	1,929
純資産合計	1,214,856	988,682
負債純資産合計	1,592,893	1,127,141

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年1月1日 至2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)
売上高	785,614	781,740
売上原価	476,915	335,105
売上総利益	308,698	446,635
販売費及び一般管理費	553,056	676,061
営業損失(△)	△244,357	△229,426
営業外収益		
受取利息	210	45
貸倒引当金戻入額	3,000	3,600
その他	221	501
営業外収益合計	3,432	4,146
営業外費用		
支払利息	1,496	299
為替差損	25	2,929
その他	979	63
営業外費用合計	2,502	3,292
経常損失(△)	△243,427	△228,571
特別利益		
固定資産売却益	—	1,160
移転損失引当金戻入益	408	—
事業分離における移転利益	19,999	—
その他	—	12
特別利益合計	20,408	1,172
特別損失		
固定資産除却損	442	61
減損損失	896	—
経営統合関連費用	—	7,344
保証金償却	1,173	—
その他	155	—
特別損失合計	2,667	7,406
税金等調整前四半期純損失(△)	△225,687	△234,805
法人税等	5,537	3,981
四半期純損失(△)	△231,224	△238,787
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△231,224	△238,787

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年1月1日 至2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)
四半期純損失(△)	△231,224	△238,787
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	153	△537
その他の包括利益合計	153	△537
四半期包括利益	△231,070	△239,324
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△231,070	△239,324
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年1月1日至2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	住宅・不動産 関連ポータル 事業	富裕層向け コンサルティング 事業	医療サイト 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	391,360	159,077	661	551,099	234,515	—	785,614
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,830	—	—	1,830	—	△1,830	—
計	393,190	159,077	661	552,929	234,515	△1,830	785,614
セグメント損失(△)	△184,239	△8,901	△2,146	△195,287	△49,097	27	△244,357

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない「インターネット広告代理事業」及び「プロパティ事業」であります。

2. セグメント損失(△)の調整額27千円は、セグメント間取引消去2,212千円、株式会社Seven Signatures Internationalの株式取得費用△2,185千円であります。

3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	住宅・不動産 関連ポータル 事業	富裕層向け コンサルティング 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	379,144	401,850	780,994	745	—	781,740
セグメント間の内部 売上高又は振替高	90	—	90	—	△90	—
計	379,234	401,850	781,084	745	△90	781,740
セグメント利益又は損失 (△)	△253,607	13,138	△240,469	△9,282	20,325	△229,426

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない「インターネット広告代理事業」及び「プロパティ事業」であります。

2. セグメント損失(△)の調整額20,325千円は、セグメント間取引消去20,325千円であります。

3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

2017年5月1日に株式会社Seven Signatures Internationalの全株式を取得し、同社及び同社の子会社を連結の範囲に含めたことに伴い、新たな報告セグメントとして「富裕層向けコンサルティング事業」を追加しております。また、「医療サイト事業」は、2017年5月1日に事業譲渡を行ったことに伴い、報告セグメントを廃止しております。

第1四半期連結会計期間より、「インターネット広告代理事業」及び「プロパティ事業」は、事業の廃止等により重要性が乏しくなったため、当該事業を「その他」に含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(重要な後発事象)

2018年7月13日(当社)に開催された臨時株主総会及び2018年7月12日(株式会社みんなのウェディング)に開催された臨時株主総会において、当社及び株式会社みんなのウェディングが共同株式移転の方法により両者の完全親会社「株式会社くふうカンパニー」を設立することが承認可決され、2018年10月1日に同社が設立されました。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

株式会社オウチーノグループは、前連結会計年度まで継続して営業損失が発生しており、前連結会計年度においては営業損失315,267千円、経常損失312,552千円、親会社株主に帰属する当期純損失286,910千円を計上したとともに、当第3四半期連結累計期間においても営業損失229,426千円を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、財務面において、当第3四半期連結会計期間末の現金及び預金残高は766,709千円と必要な事業資金を確保しており、財務面に支障はないものと考えております。また、株式会社オウチーノグループは、このような事象又は状況を解消するため、事業の再構築により収益力を強化すると同時に、新サービスの開発による収益源の多様化を目指すことで、営業損益黒字化の早期実現に努めてまいります。これらのことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表への注記は記載しておりません。